

切実な声を届け、力あわせて

要求実現にがんばります！

「18歳まで医療費を無料に」「難聴者の補聴器購入に助成を」。2つの要望署名が市長に提出されました。

18歳まで医療費を無料に

「福山市の子どもの健やかな育ちを願う保護者の会」は24日、医療費助成を18歳まで拡大し、一部負担と所得制限をなくすことを求め、1236筆の署名を提出しました。

保護者ら5人が参加し、市のネウボラ推進部長と課長が応対しました。

二人の子育て中の女性は「上の子が中学3年生で、手術を2回受けたが、助成があったので家計の負担があまりかからずすんだ。だれもが必要な医療を受けられるよう、18歳まで助成してほしい」と訴えました。

17歳の子を育てる女性は「子どもが中学生のときは、市の助成が小学生まで対象にならず、窓口負担が2万円になったこともある。今も通院しているが、医療を受ける機会を保障するのが中学3年生までで良いのか」と疑問を投げかけました。

補聴器購入に公的助成を

「補聴器の公的助成を求める会」は25日、国の補助制度の対象とならない軽・中度の難聴者への補聴器購入助成を求め、1195筆の署名を提出しました。

当事者や支援者8人が市役所を訪れ、障害福祉課長ら職員5人と懇談しました。40代で難聴になった女性は「補聴器がないと仕事が続けられないし、差別も受けた。取り残されたよ

うな感じで人に会うのが嫌になる。補聴器は体の一部だが、両耳で50万円、買い替えも必要で車1台分はかかった。払えず困っている人は多いと思う」と市独自の助成を求めました。

涙ながらに話す参加者もあり、障害福祉課長は「思いを聞かせていただき、苦労も把握した。他市の状況を調査しながら考えていきたい」と答えました。



河村ひろ子市議が同席

2つの署名提出には、河村ひろ子市議が同席しました。保護者や当事者の声を聞き、署名運動に力をあわせてきました。12月議会でも取り上げ、実現に全力を尽くす決意です。



22日、市民要求懇談会を開催



7人の参加があり、精神障害、部活指導員、統一協会、気候危機、大型道路、後期高齢者医療についてなど様々な意見が出されました。

日本共産党

議員団ニュース

発行 日本共産党福山市議会議員団 福山市津之郷町津之郷 970-1



高木たけし
①084-972-6830



河村ひろ子
①084-965-6049



みよし剛史
①090-1182-3973